

人の山

石丸 英秋

人は

誰もが

頂点を目指して

人の山を登る

その山は

いつも

天気が良いとは

限らないし

険し過ぎる絶壁も

そこには

絶対にある

そして

誰もが

頂点からの

その絶好の景色を

眺められるわけではない

頂点からの

その景色を

一度でも

眺めた人は

その快感が
忘れられず

また

別の山を

登ろうとする

荷物を下ろして

登る人もいれば

一度

登った時の

その荷物を

背負ったままの人もいる

僕は

今

三連山を登ろうとしている

歌

詩

小説

僕は

既に五十三歳になった

山登りに賭けた

僕の人生に

今現在

荷物は

少ない

大事な

大事な
それは
荷物だったけれど・・・
どんな水を
その潤いのために
飲もうとも
僕の荷物は
決まっている

今度こそ
君と
二人で
その頂上の
雲一つない
下界の
絶景を見たい

その時の空は
海よりも
青いはずだ
あの時のように・・・

石丸 英秋

一九五九年生まれ 五十四歳
神奈川県横浜市在住
音楽家

一九七七年 稚内高校卒業
一九七八年 北海学園大学工学部建築科入学
二〇〇二年 大原簿記札幌校法律科修了
二〇〇五年 日本文学館ポエム大賞審査員推薦賞受賞